

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年 1月 8日 (木)

2 確認箇所

- ・日本海溝津波対策防潮堤（1～4号機東側、4号機南側）（図1）
- ・2号機原子炉建屋西側（既存・増強サブドレンピットNo. 206）（図1）

3 確認項目

- (1) 日本海溝津波防潮堤設置の状況
- (2) 既存及び増強サブドレンピット等の設置・運用状況
(サブドレンNo. 206及び増強ピット206の現況)

4 確認結果の概要

(1) 日本海溝津波対策防潮堤設置の状況

令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫しているとの評価を公表した。これを受け東京電力は、T.P. 11.8 m規模と想定される日本海溝津波に対する備えとして、令和3年6月21日から令和6年3月15日にかけて日本海溝津波対策防潮堤の設置工事を実施し、県では、設置後の状況確認を定期的に行っている。（前回確認：令和7年8月28日）

- ・確認した範囲で防潮堤及び路面に亀裂や陥没はなかった。（写真1）
- ・防潮堤の高さを上回る津波が襲来した際に防潮堤内側の海水を排水するフラップゲートは、可動部に錆等は生じておらず手動で容易に動作することを確認した。（写真2～3）

(2) 既存及び増強サブドレンピット等の設置・運用状況

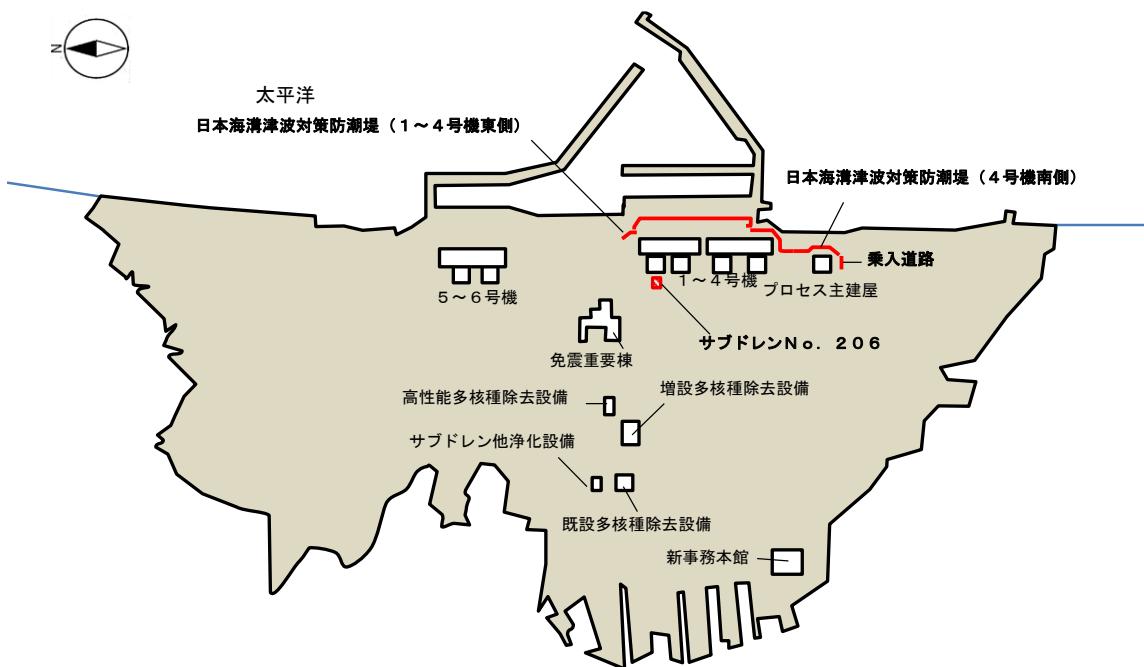
（サブドレンNo. 206既設ピット及び増強ピット206の現況）

サブドレンは、原子炉建屋等の近くに設置されている井戸であり、地下水が原子炉建屋等に流れ込むことで増加する汚染水の量を減らすため、平成27年より運用を開始している。また、平成29年以降からは、処理能力向上のため、順次口径の大きい増強ピットを設置し、増強ピットへ処理機能を移行している。

一方、昨年11月1日未明にかけて震災後最大となる1時間当たり48.5mmの降雨が発生し、No. 206 既設ピットの水位が急上昇する事象が発生した。今回は、No. 206 の既設ピット及び増強ピットの双方を確認した。

（前回確認：令和6年11月5日）

- ・増強ピットNo.206 及び既設ピットNo.206は、1号機原子炉建屋北西側（1、2号主排気筒の北側）に、隣接する位置に設置されていた。
(写真3)
- ・既設ピットNo.206は震災直後に小口径（Φ200）で設置されたものの、孔口がマンホールとなっているため構造上雨が溜りやすくなっている。これまでのピット内における珪砂堆積事例や昨年11月のような水位上昇を回避し、処理能力を向上させるため、大口径（Φ1,000）ピットを有する増強ピットNo.206が新設されていた。(写真4)
- ・今後（2026年度中）、既設ピットNo.206から増強ピットNo.206へ処理機構の移行が計画されているが、現時点においては増強ピットNo.206への移送配管や電源ケーブル新設及び準備作業等は行われていなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1①) 防潮堤の状況（海側）

(写真1②) 防潮堤の状況（陸側）



(写真1③) 防潮堤海側通路の状況



(写真1④) 防潮堤上面通路の状況



(写真2①) フラップゲートの状況（海側）



(写真2②) フラップゲートの状況（陸側）



(写真3①) サブドレンピット
No. 206（既存）の状況①



(写真3②) サブドレンピット
No. 206（既存）の状況②



(写真4①) サブドレンピット
No. 206（増強）の状況①
(移送配管・電装ケーブルは未接続)



(写真4②) サブドレンピット
No. 206（増強）の状況②

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。